

第五次川越市国際化基本計画 令和5年度計画の指標

○基本目標1：外国籍市民への支援の充実

指標	単位	基準値 R2年度	実績値 R5年度	目標値 R7年度	進捗状況
日本語教室延べ参加者数 ※1	人	232	3,765	4,300	
市内地区別（全12地区）において対面型日本語教室を運営する割合	割合	2/12	3/12	5/12	

※1 川越市国際交流センターで実施する日本語教室への外国籍市民の年間延べ参加者数。

○基本目標2：多文化共生意識を持った市民の育成

指標	単位	基準値	目標値
		R元年度	R7年度
多文化共生の認知度 ※2	%	26.8	50

※2「令和元年度川越市国際化に関する市民意識調査（日本人市民向け項目）」において、「多文化共生」という言葉を「意味も含めて知っている」と回答した割合。次回の市民意識調査にて測定する。

○基本目標3：外国籍市民にも暮らしやすいまちづくり

指標	単位	基準値	目標値
		R元年度	R7年度
川越市の住みやすさ ※3	%	52.4	60

※3「令和元年度川越市国際化に関する市民意識調査（外国籍市民向け項目）」において、川越市は「住みやすい」と回答した割合。次回の市民意識調査にて測定する。

○基本目標4：姉妹・友好都市交流などの充実

交流については、事業内容の性格上、定量的な数値管理になじまないため、数値目標は設定しません。また、新型コロナウイルス感染症の影響や社会情勢の変化に左右されることも見込まれることから、交流事業の内容、方法、成果等について、定性的な評価を行います。

【令和5年度進捗状況について】

コロナ禍前の状況に完全に返ることは難しかったものの、多くの事業が再開されました。

地域の国際化の拠点施設である「川越市国際交流センター」では、市と市民団体との協働事業として、各団体の特色や専門性を活かした教室を週11コマ展開し、多くの外国籍市民に日本語学習の機会提供しています。また、国際交流センター以外でも新たに霞ヶ関北公民館で新教室が開設されました。さらに、案内板やパンフレットの多言語での作成、関係機関に出向いての情報提供などにも取り組んでいます。

姉妹・友好都市交流については、社会情勢等の理由によりオッフエンバッハ市への中学生交流団の派遣が中止になったものの、市立川越高校生徒のノースセーレム高校への派遣や、国内姉妹友好都市との交流事業が行われました。中学生交流団の派遣についても、相手市と調整をしながら再開に向けて準備を進めており、オンラインでの交流も検討しています。